

## No.725 世界の原子力発電の主な状況

2016年7月22日

株式会社ユニバーサルエネルギー研究所  
取締役・顧問 青柳 雅

日本では相変わらず逆風が吹き荒れている原子力発電ですが、世界全体では着実に改善が続けられており、進展があるようです。このたび世界原子力協会（WNA）が世界の原子力発電の状況についてとりまとめた初の報告書「世界の原子力発電パフォーマンスレポート」として6月21日発表しました。報告書には「持続可能な開発のための原子力発電」、「各地域における原子力産業動向」、「原子力発電パフォーマンス（世界全体の原子力発電の状況、建設・運転状況、設備容量増大や長期運転に向けた改修状況、廃止措置状況）」の3項目について、最新の情報が示されています。

<http://www.world-nuclear.org/press/press-statements/world-nuclear-performance-report-2016-launch.aspx>

レポートによると、世界の原子力発電の主な状況は、以下のとおり。

- 2015年に建設中の原子炉は66基、送電網に併入された原子炉は10基で、それぞれ過去25年で最多であった。
- 過去35年にわたり、原子炉の平均設備利用率は増加した。運転年数の長い原子炉においても設備利用率は良好である。
- 新設炉の建設期間はこの15年で短縮しており、2015年に送電網に併入された原子炉の建設期間は、平均約6年間であった。

①一部地域、たとえば欧州の一部の国では、既設炉に関して社会的受容性の問題から原子力が否定的な政策環境下であり、米国でも自由化されたエネルギー市場において、原子力発電所の運転者にとって経済状況は厳しくなっている、など厳しい市場環境にあるものの、既存の原子力発電所のパフォーマンス自体は安定しており、さらに中国を中心にアジア地域では新設が進められていると指摘している。

②原子力発電が世界経済の拡大を支え、電力不足を解消し、国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）で合意された目標を達成するためには、現状の新設ペースではまだ不十分であると指摘している。

③再エネや原子力等の低炭素電源の拡大と化石燃料利用の縮減による調和のとれた電源ミックス実現のためには、2050 年までに原子力発電設備容量を 10 億 kW 増大させ、世界の電力需要の 25%を原子力発電によって賄う必要があるとし、これを“ハーモニー・ヴィジョン”として掲げている。そしてハーモニー・ヴィジョン達成のためには、政府の関与が必要であり、加えて原子力への多額の投資も必要であると指摘している。

以上